

第1回 追手門グッズ コンテスト開催

ベンチャービジネス研究所主催で毎年行われる「追大学生ビジネスプランコンテスト」の前哨戦として、今年新たに設けられた「追手門グッズコンテスト」が、6月21日(土)に行われた。

1次審査を通過した18チーム(高校生3チームを含む)がそれぞれの企画案をプレゼンテーション。「グッズとしての価値」「宣伝効果」「プレゼンテーションの共感性」「実現可能性」などの審査基準をもとに争われた結果、経営学部3年生のチームT.O.M(写真左)による「追手紙(レターセット)」と、同じく経営学部3年生の嶋本純也さん(写真右)による「おうてもん(あまいもん(金太郎飴))」が見事優秀賞に輝いた。

INTERVIEW



チーム T.O.M
「追手紙」
経営学部
マーケティング学科 3年
高谷慶輔さん(写真右)
大原翼さん
光岡紗希さん(写真左)

型にはまらず自由に、伝えたいことを しっかり決めて伝えることが大切。

「グッズを何にするかよりも、チャリティー募金と売上金全額寄付という、他チームとの差別化を図るためのアイデアを重視していました(光岡さん)。「人前でこんなに上手く話せたのは初めてですね。1ヵ月間考え続けたことについてのプレゼンだったから、言葉も出やすかったのだと思います。こういう場では、型にはまらず自由に、伝えたいことだけをしっかり伝えたいのが大切だと改めて感じました(高谷さん)。



ベンチャービジネス研究所

これからの働き方や企業のあり方を“ベンチャー”という視点からとらえて研究する「ベンチャービジネス研究所」では、学生を対象としたイベント・プログラムも主催している。ぜひ気軽に参加して、“将来の種”を蒔いてみよう。

[interview: 八木 真奈美/松岡 駿弥/青崎 達也]

個々の能力を開花させ 発揮できる場所として

ベンチャービジネス研究所は、経営学部の教員を中心に構成され、国内外ベンチャービジネスの理論的・実証的研究のほか、その成果を発信するための講演やレビュ発行などを行うが、学生が直接参加し取り組める、さまざまな活動も行っている。

「グッズコンテスト」や「ビジネスプランコンテスト」の主催以外にも、茨木フェスティバルで茨木商工会議所商業部会との共催による「市民1000人アンケート」を実施したり、学内での定期的なプログラムとして「アプリ研究会」を毎週土曜日に開講している。

「知識やスキルがなくても、興味さえあれば、どの学部も学生にも参加して欲しい」と思っています。

参加者募集中!

企画・プログラム・デザイン…、
ベンチャービジネスを体験しよう!

アプリ研究会

日時 毎週土曜日/3限・4限
場所 中央棟1F

●お問い合わせ
TEL : 072-641-7374
Mail : venture@ml.ccile.otemon.ac.jp



君のアイデアを待っている!

第5回/追大学生

ビジネスプラン コンテスト

優秀賞
QUOカード
5万円分[1組]
ほか

「何をビジネスとして行うか?」「どうやって利益を上げるのか?」を考え、社会を変える新たなビジネスを考えよう。

応募資格 大阪府下の高校・大学・大学院に通う学生(個人またはグループ。ただし、大学生・大学院生の場合は、追手門学院大学の学生個人か、1人以上の追手門学院大学学生を含むグループ)

募集期間 平成26年11月3日(月)まで
[2次審査は平成26年11月29日(土)、5301教室にて]

●お問い合わせ
ベンチャービジネス研究所(中央棟1F)
[月・水・木/9:15~16:00/担当 宮下]
TEL : 072-641-7374
Mail : venture@ml.ccile.otemon.ac.jp



NEW



2015年4月 地域創造学部、開設決定!

地域の今を知り
未来を担える人材の輩出を

追手門学院大学の新たな学部として、「地域創造学部」(学部長 予定者: 武田佐知子)が2015年4月から開設される。

本学のある茨木が、京都・大阪・神戸の三都市のほぼ中心にあるという地の利を生かし、ここを拠点に研究・教育を展開していく。

学部のミッションとして、

- 地域の「ニーズ」をキャッチする。
- 地域の「宝物」を発見する。
- 地域の「アムテナ」になる。
- 地域の「ナンバー」をつくる。

の4つを掲げ、地域の行政や企業、文化やメディアなど幅広い分野を対象に、フィールドワークやインターシッピングといった実践的な取り組みも積極的に取り組んでいく。地域研究において、最先端を

の役割を担える学部をめざしていく。

社会で即戦力になりうる
知識・技能の習得をめざす

設置されるのは、

- 「地域経済・事業創造コース」
- 「観光・まちづくりコース」
- 「都市文化・文化創造コース」

の3つのコースで、いずれも社会への理解・知識

- 企画・提案・情報発信力
- 社会貢献・協働力

といった、社会人として即戦力になりうる知識や技能を身につけ、新しい文化やビジネス、行政サービスを創造できる人材の育成をめざしている。

また、卒業後の活躍の場に海外を視野に入れている学生のために、充実した国際教育プログラムも準備されている。



写真左は新作狂言「茨木童子」。写真右は「見山の郷・商品開発プロジェクト」。これら「地域文化創造機構」を中心に、追大生が参加してきた多彩な地域振興プロジェクトの実績は、地域創造学部でも活かされていく。

コース紹介

地域経済・事業創造 コース

地域経済や地場産業、地方自治体といった地域を支える仕組みなどを学びながら、地域のニーズや課題の発見およびその解決にも取り組み、地域社会に貢献できる人材の育成をめざす。また、技能や家業の承継、起業についての知識も身につける。

観光・まちづくり コース

観光資源の発掘・創造やまちづくりをテーマに、数多くのフィールドワークや実習を行い、幅広い知識と実務的な経験を身につけながら、地域ならではの魅力を広く社会に発信していく力を育てる。地域企業との連携プロジェクトなど、より実践的なプログラムも実施される。

都市文化・文化創造 コース

景観や歴史、地場産業やメディアなど、広い視点から文化を捉え、地域の発展を見出す総合的なプロデュースを学んでいく。また、日本文化をはじめとするさまざまな教養を身につけながら、それらを海外へ発信していくための外国語運用能力なども磨いていく。

NEW



スポーツ研究センター

スポーツを文化として育成
地域スポーツの拠点にも

追手門学院大学創立50周年記念事業の一環として「スポーツ研究センター」が大学内に設立された。スポーツ教育をはじめ、スポーツマネジメント、地域スポーツや生涯スポーツなどを研究すると



ともに、地域住民へのスポーツ指導などの事業を推進し、市民の健康・体力向上を支援する活動にも積極的に取り組んでいく。

7月26日には学生会館大ホールにて設立記念シンポジウムを開催。日本サッカー協会名誉会長 長川淵三郎氏による講演が行われた。さらに、「大学と地域スポーツ」をテーマとしたパネルディスカッションが行われ、大学が地域スポーツの拠点となることの意味について話し合われた。

NEW



成熟社会研究所

若者と一緒
次世代の成熟を探る!

2014年5月29日、学校法人追手門学院の附属機関として「成熟社会研究所」が、大阪城スクエア内に誕生した。多様な選択肢に揺れる社会の中で、「若い人達の自立に関わるテーマ」「次世代のための社会環境に関するテーマ」を切り口に調査・研究発信を行っていく。

学生参加型の企画も多数実施予定。第二弾は「シェアラボ」。カフェのような雰囲気の中で、教職員、保護者、地域や企業の方々と一緒に



社会の出来事を学びながらディスカッションを行い、成熟社会の現状や課題を見つめなおす。多様な考え方に触れることで、視野が広がり自分の軸が磨かれるだろう。

今後は、学生インタビューによる調査活動や、学外の研究機関・NPOとの共同研究なども検討している。関心のある学生は学内の掲示等に注目。